

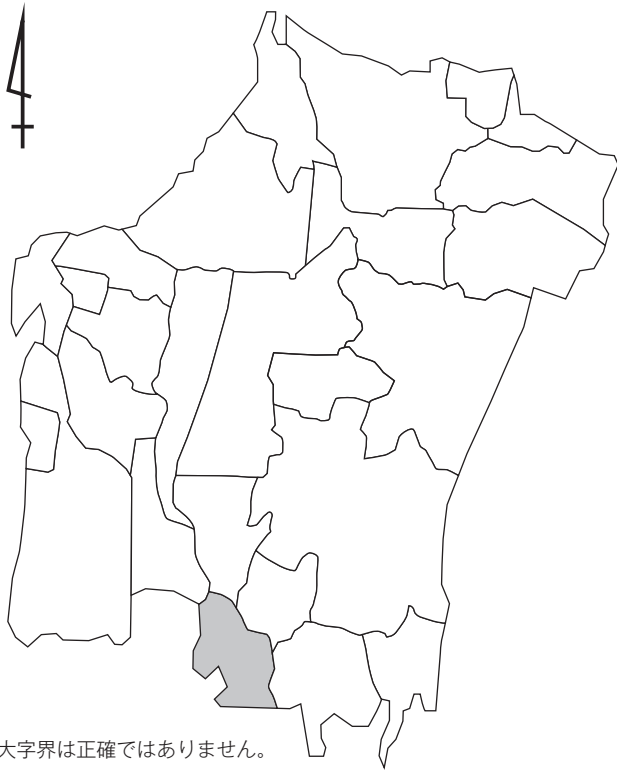
郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 五分一

五分一は、町の南側、田川左岸の低地とそれに続く台地上に位置しています。西側は田川を挟んで下野市とその境を接し、東側には無名瀬川が蛇行しながら南流し、田川に合流しています。

五分一は、かつて五分一村と称し、江戸時代に入り五

分一村と木川田村に分村したといわれていますが、両村の境界は不明です。明治8(1875)年に両村が合併して五分一村が誕生し、明治26(1893)年に上三川町大字五分一となりました。江戸時代はじめは烏山藩領で、後に天領、宇都宮藩領を経て、幕



※大字界は正確ではありません。

末には天領、旗本領、寺社領となりました。

地区の鎮守として、田川沿いに星宮神社が鎮座しています。創建年代は不明です。

星宮神社は、崇神天皇の第一子・豊城入彦尊が毛野国(栃木県・群馬県)を開拓に来たときに、香取神社の祭神・経津主尊の祖父母である磐裂神と根裂神を祀り星宮と称したといわれています。栃木県内に数多く鎮座しており、町内では五分一と東蓼沼・坂上・三村・多功・梁・鞘堂の七社あります。

そのような時代に先んじて、ここ五分一で生活を営んだ人々の痕跡を五分一上野原遺跡(字上ノ原)にみる事ができます。田川左岸の台地縁辺部に位置するこの遺跡からは、今から5000年から6000年前の縄文時代前期の土器が見つかっています。また、古墳時代や奈良・平安時代の土師器・須恵器も見つかっています。なお、この台地上にはいくつもの古墳が築かれています。いまではそ

のほとんどは湮滅してしまっています。当時のこの地の有力者が葬られていたのでしよう。

さて、五分一という少し変わった地名の由来には、次のような二つの説があります。

ひとつは、その昔、五分一・三村・坂上、下野市の谷地賀・三王山を合わせた範囲を木川田の郷と称してしました。木川田の郷を分村するにあたり、5つに分けたうちの1つの村という意味で五分一

村となったとする説です。

もうひとつは、江戸時代の中頃に凶作続きで農民が年貢を納められなかったために、殿様から年貢は五分の一でよいといわれ、それ以後、五分一村と呼ばれるようになったとする説です。

どちらも伝承であるために確たる証拠はありませんが、地名の由来にはそれなりの意味が込められていることがうかがえます。



田川沿岸に鎮座する星宮神社